

試行版

ハイツカ湖地域ビジョン

灰塚ダムによって生まれた資源を活かした
「いきいき」のわづくり



基 本 方 針 案

ハイツカ湖地域ビジョンの基本方針案（試行版）は、今後の中山間地域をリードすべく、ハイツカ湖地域の住民、行政、広域的な有志等、多様な人々がそれぞれの機能を活かして参画し、意見を交え、アイデアを出し合った結果を基にして作成したものです。

この基本方針案(試行版)に基づき、ハイツカ湖周辺地域の明るい未来に向けて、多様な主体の参画の下、試行プロジェクトを推進していきます。

これから具体的な試行プロジェクトを重ねていく中で、見直しを行いながら、より推進力・持続力のあるビジョンに育てていきます。

平成 20 年 3 月 ハイツカ湖地域ビジョン推進委員会

はじめに

(1)ハイヅカ湖地域ビジョンとは？

中国地方のほぼ真ん中に位置するハイヅカ湖地域は、豊かな自然環境のもと人々が営々と積み上げてきた暮らしにより歴史、民俗、文化、人材に恵まれた地域が形成されてきました。

全国的に地域格差、中山間地域の過疎化・少子高齢化が進展する一方で、心の豊かさ、心の充実を実感できるいきいきとした暮らしなどを求めて地域への期待も高まっています。

そんな中、灰塚ダム建設により洪水や濁水に対する安全・安心が高まるとともに、広大な水面を有するハイヅカ湖が生まれました。

ハイヅカ湖周辺地域の明るい未来に向けて、将来へのロマンを描き、柔軟で幅広い力の集結が必要となっています。

ハイヅカ湖地域ビジョンは、ハイヅカ湖地域の自立的・持続的な活性化を図り、今後の中山間地域をリードすべく、ハイヅカ湖地域の住民、行政、広域的な有志等、多様な人々がそれぞれの機能を活かして参画し、自主・自律したパートナーとして相互に連携・協力しながら、地域の重要な資源の一つである灰塚ダム・ハイヅカ湖を中心に「灰塚ダムによって生まれた資源を活かした「いきいき」のわ(和・輪・環)づくり」を目指し、目標・基本方針を共有して実行、実現を図ることを目的としています。

(2)ハイヅカ湖地域ビジョン基本方針案(試行版)の位置づけ

ハイヅカ湖地域ビジョン基本方針案(試行版)は、2回の委員会及び2回の分科会を重ねた結果を基本に作成したものです。試行版に基づき試行プロジェクトを推進し、その状況を見ながら方針や取り組み内容等を修正していきます。

平成21年に第1版としてのビジョン基本方針を策定する予定です。この様に、ビジョン基本方針は1度決めたら決定というものではなく、必要に応じて見直し・修正し、より良いものへと高めていくこととします。

(3)ハイヅカ湖地域ビジョン基本方針案の作成の経緯

年月日	事柄	概要
平成19年 11月29日	灰塚ダム水源地域ビジョン準備会	灰塚ダム水源地域ビジョンの進め方について、地域有志の方々による意見交換を実施。
平成19年 12月19日	ハイヅカ湖地域ビジョン推進委員会	「ハイヅカ湖地域ビジョン」の名称及び趣意書を決定。また分科会のテーマについても承認。
平成20年 1月28,31日	ハイヅカ湖地域ビジョン分科会	6つのテーマによる分科会を開催。地域の魅力や課題、将来像等について意見交換を実施。
平成20年 2月13日	ハイヅカ湖地域ビジョン分科会	合同で分科会を開催。第1回分科会を踏まえ、分科会の目標や取り組みについて意見交換を実施。
平成20年 2月29日	ハイヅカ湖地域ビジョン推進委員会	分科会での意見交換を基本として基本方針案について協議。事務局にて修正後、公表することを承認。
平成20年 3月	基本方針(試行版)公表	ハイヅカ湖地域ビジョン試行版を公表。

ハイツカ湖地域の現状

(1) 豊かな自然環境

広島県の北東部に位置するハイツカ湖地域は、カタクリやセツブンソウなどの山野草の宝庫であり、動物では、近年個体数が激減しているダルマガエルやブッポウソウなども含め、地元住民の方による保護・生育活動も盛んに行われています。また、人工湿地としては日本最大規模（約 70ha）である知和ウェットランドも新たな水辺環境を創出し、平成 17 年に国特別天然記念物のコウノトリが飛来したことで有名になりました。

(2) 時代を先取りするハイツカ湖地域

三次市の人口は最近 25 年間で約 4,500 人（平成 17 年現在：59,314 人）、庄原市は 10,000 人以上の減少（平成 17 年現在：43,149 人）傾向をたどっています。

また、平成 17 年の広島県及び全国の年齢階層別人口割合をみると、老年人口の占める割合はともに 20%強であるのに対し、三次市は約 30%、庄原市は約 36%に上ります。

ハイツカ湖地域は、人口減少の加速化が全国よりも 10～15 年早く進んでいると言われています。このような状況下で、地域の方々が主体となって、ハイツカ湖を活用したウォーキング大会など、活性化に向けた行事・催しなどが取り組まれています。

（すべて合併後の新市で換算）

(3) 恵まれた立地条件と周辺施設

三次市、庄原市周辺では古くから人々の暮らしが営まれており、多くの遺跡や古墳が現存します。また、花園、果物農園のほか、備北丘陵公園、奥田元宋・小由女美術館などの観光資源があります。

さらに、ハイツカ湖地域には「ハイツカ湖畔の森」や「田総の里スポーツ公園」をはじめとする様々な施設があり、平成 19 年度の利用者数は約 20,000 人で、昨年度に比べやや増加傾向にあります。

(4) ハイツカ湖地域の暮らし

ハイツカ湖地域の各自治会では、各地の特色に応じて、カタクリ祭り、節分草祭り、ホタル祭り、夏祭り、秋祭りやパークゴルフ・グラウンドゴルフ大会など、地域の方々が自らの地域を楽しむ姿が見られます。

(5) 灰塚ダム・ハイツカ湖

灰塚ダムの主な役割は、ダム下流の人々の命・財産を洪水から守ること、三次市と庄原市にそれぞれ日量 10,000 トン、5,000 トンの水道水・農業用水を供給することのほか、下流の河川水が不足する場合に環境用水を放流し、ダム下流の環境を改善する機能も備えています。

また、ハイツカ湖地域には、知和ウェットランド、なかつくに公園などの自然を活かした施設があり、四季折々の花を見学できる場所も点在します。さらに、湖畔では釣りやキャンプを楽しむ人が増加しています。

ハイツカ湖地域ビジョンと基本方針(案)

ハイツカ湖地域ビジョン

灰塚ダムによって生まれた資源を活かした

「いきいき」のQ「わ」づくり

具体的取り組みと試行プロジェクト

(1) 豊かな暮らしと文化・芸術(第1・4分科会)

テーマ：ハイヅカのきれいを味わう


試行プロジェクト	取り組み
ダム湖周辺の整頓	山・周辺道路・湖などの清掃をし、見た目をきれいにする。
それもごちそう	ハイヅカ湖地域の風景の美しさや体験した面白さが、ごちそうであり、歴史・過去・継承してきたことなど良いものを発見し、伝え学ぶ。
つながりをつくる	外部との交流、きれいで美味しいごちそうを外へ。
(主な増進・解決策への意見)	
<ul style="list-style-type: none"> ・里山の手入れ ・地元大豆の味噌づくり ・兼業の促進 ・安全な農作物づくり ・美味しいものをみんなで食べ教える ・伝統文化に誇りをもつ(神楽、盆踊り、太鼓) ・写真、絵はがきコンテストを継続する ・都市部・他地域の人とのコミュニケーション ・灰塚の情報をネットで配信したり、新聞、TV、ガイド本などでPRしてもらう ・行政とタイアップして空き家等を利用した住民移住計画を進める 	

(2) 自然との共生(第2分科会)

テーマ：日本一の里山づくり

試行プロジェクト	取り組み
ハイヅカを知り、ハイヅカビューポイントに名前をつける「探湖会」を開く	ハイヅカ湖ができたことにより良くなったビューポイントを探して歩き、名前をつける会をつくる。
「雑草、かずら」などを取り除くだけでなく利用し楽しむ野の花(山野草)を輝かす会を開く	里山とは言いがたい風景を改善し、野の花を活かす、輝かす会をつくる。
<ul style="list-style-type: none"> ・になる 「里山の達人」を発掘する ・を育てる 「志立里山楽校」を創立する 	「里山の達人」をつくるため、志を同じくする人を集め、里山に親しんでもらうための「志立里山学校」をつくる。
(主な増進・解決策への意見)	
<ul style="list-style-type: none"> ・自給自足を売りにした宿泊所を作る ・ハイヅカ湖へバスツアーで都市から来てもらう ・青空教室を開く ・地域の人が株主になって地産地消の場をつくる ・何時でも湖水面が見えるようにする 	

(3) 地域活性化(第3分科会)

テーマ：～ぐるっと～  っとハイツカ

試行プロジェクト	取り組み
③ っとハイツカ マップ・ガイドづくり	沢山あるハイツカ湖地域の魅力(祭り、イベント、生き物など)を四次元マップにし、ガイドする(青空教室など)。
④ っとハイツカ おもしろ施設づくり	・施設をもっと利用・活用する。 ・季節や旬の食を楽しむ。
⑤ っとハイツカ 抱きしめてハイツカ湖	みんなでハイツカ湖をぐるっと手をつないで囲む「抱きしめてハイツカ湖」を2010年5月4日に開催予定。
(主な増進・解決策への意見)	
<ul style="list-style-type: none"> ・スローライフの体験 ・Iターンの促進 ・松茸再生 ・森林保護 ・地域の方が参画できる物産館 ・ハイツカだけのオリジナルの発信や開発 	

(4) 健康・福祉(第5分科会)

テーマ：健康福祉のメッカ5年計画

試行プロジェクト	取り組み
マップづくり(歴史・自然・木かげ・ウォーキング・水遊び・魚つり穴場)	第3分科会と協同で実施。
若老男女・万人のための健康スポーツ企画(車椅子ウォーキング・(電動カー)ハイキング・マラソン・ウォーキングなど)	マラソンやウォーキング、ハイキングなどのイベント企画。第3分科会と協同で実施。
ニュータイプの福祉の家・湖域構想	・安心して住めるところ。 ・電動化も導入(車椅子ウォーキング)。
(主な増進・解決策への意見)	
<ul style="list-style-type: none"> ・パークゴルフ、グランドゴルフ、ハイキング等の定期的実施 ・水上サッカ場をつくる ・運動公園周囲の3S(整理、整頓、掃除) ・季節毎のウォーキング(花、木、紅葉鳥の時期) ・電動スクーター教習所、運動療法への活用 ・新スポーツ「草(クサ)レチック」大会の開催 ・つけもの(自然、健康食、ブルーギルずし)レストランの開店 	

(5) ウェットランドと環境教育(第6分科会)

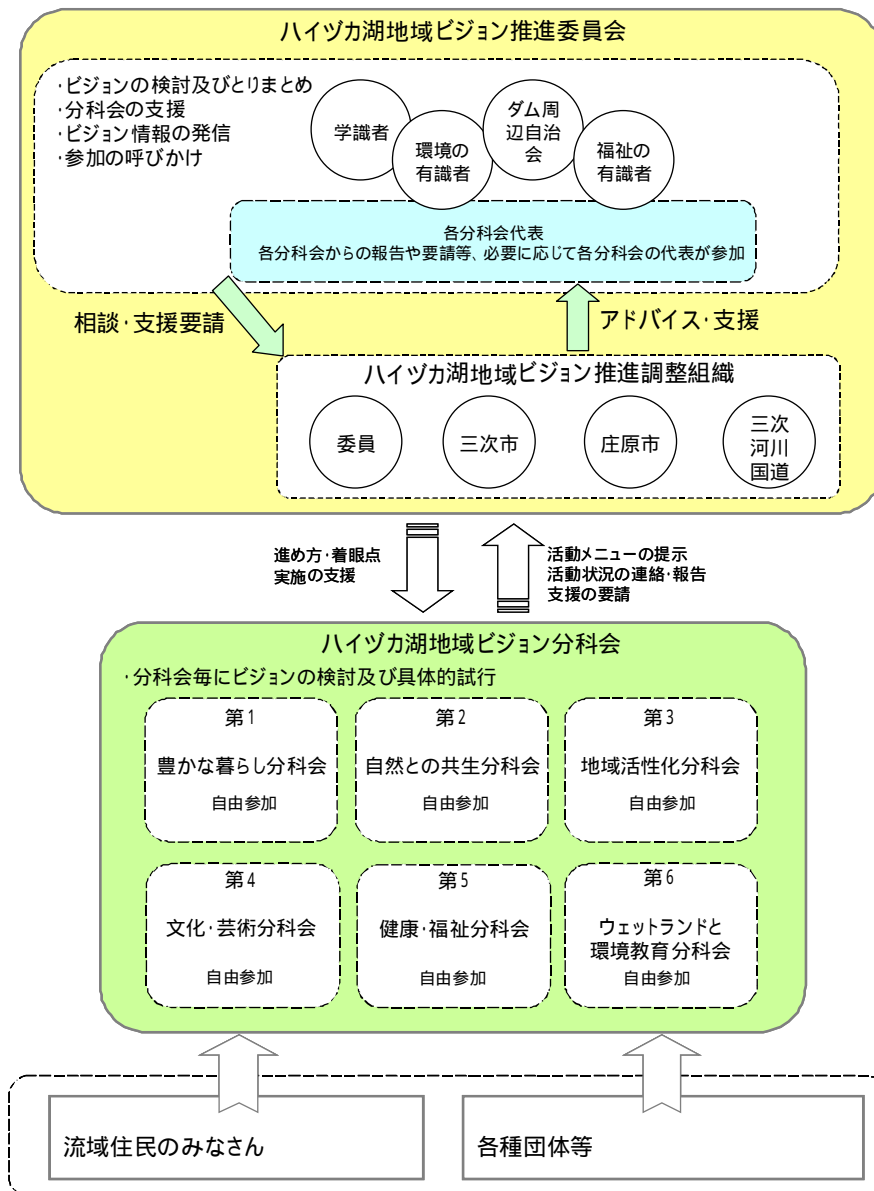
テーマ：里山の自然博物館

試行プロジェクト	取り組み
ブッポウソウの巣箱用支柱の設置と巣箱かけ	ブッポウソウの為の巣箱を設置する。
近隣の小学校に呼びかけて定期的な自然観察会の開催	三次市、庄原市の小学校に呼びかけて、定期的なイベントとして自然観察会を開催する。
周辺自治会との協力による苗づくりと植樹会(ドングリ、モミジ、実もの)	・ドングリはオシドリのえさになる。 ・オシドリはブッポウソウの巣箱を使うこともある。 ・小さい苗などなかなか育たないので、ある程度の大きさのものを育てる(3~4年)。
(主な増進・解決策への意見)	
<ul style="list-style-type: none"> ・コウノトリの住む環境作り ・環境センターの設立 ・紅葉林を多くする ・ネットによるPR ・ウェットランドの予算獲得 ・人の手を入れない環境づくり ・ファンクラブ定期集会 	

ハイツカ湖地域ビジョンの推進体制

ハイツカ湖地域ビジョンの取り組みは、参加するみなさんが中心となって進みます。写真にあるようなワークショップ形式での意見交換や具体的な活動を行っていきます。“たのしく、なごやかに”をモットーとして、わいわい・がやがやとハイツカ湖地域のこれからのことを話し合い、将来に向けた取り組みを行っていく予定です。

時には、食文化交流としての試食会や、地域の魅力探しとしての地域資源見学会、などなど、みなさんと思考を凝らしながら、楽しくビジョンに向けた取り組みを実施していきます。



ハイツカ湖地域ビジョン推進委員会 委員構成

敬称略

中越 信和	有識者	広島大学国際環境協力プロジェクト研究センター長 教授
立石 雅哉	ダム周辺自治会	仁賀振興会 会長
多留 正弘	ダム周辺自治会	安田自治振興会 会長
今井 秀明	ダム周辺自治会	のぞみが丘運営協議会 会長
和田 芳治	ダム周辺自治会	木屋地区自治振興区 区長
山根 京司	ダム周辺自治会	稲草西自治振興区 区長
前川 俊清	教育	県立広島大学 生命環境学部 准教授
金沢 成三	自然・教育	比婆科学教育振興会 会長
岩水 正志	自然	灰塚ダム知和ウェットランド フレントリ館 館長
熊原 保	福祉	社会福祉法人総領福祉会 理事長
湧田 法恵	行政機関	三次市 三良坂支所長
久保田 隆義	行政機関	三次市 吉舎支所長
永田 修治	行政機関	庄原市 総領支所長
島田 淳次	行政機関	国土交通省 中国地方整備局 三次河川国道事務所 所長

委員長

ハイツカ湖地域ビジョン分科会 構成

分科会	テーマ
第1・4分科会	豊かな暮らしと文化・芸術 生き生きとした豊かな暮らし、趣味や文化・芸術等の共有ネットワークなどについて
第2分科会	自然との共生 ハイツカ湖周辺の自然や里山環境と人との関わりなどについて
第3分科会	地域活性化 兼業農家の活性化、特産品や地域ブランド作り、イベント企画などについて
第5分科会	健康・福祉 ハイツカ湖周辺施設等を利用した健康増進・福祉・スポーツなどについて
第6分科会	ウェットランドと環境教育 ウェットランドの環境保全と、ウェットランドを活用した環境教育や体験学習などについて

ハイツカ湖地域ビジョン基本方針案（試行版）

平成 20 年 3 月

ハイツカ湖地域ビジョン推進委員会 事務局
（国土交通省 三次河川国道事務所 灰塚ダム管理支所内）
〒729-4302 広島県三次市三良坂町仁賀 1 5 7 5
Phone.0824-44-4360 Fax.0824-44-3544
ハイツカ湖地域ビジョン WEB : <http://www.haizuka.net>